

# 第1回総務経済常任委員会・厚生文教常任委員会 合同委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和3年6月16日（水曜）		午後 2時10分 開会			
	休憩 14:13-15					
			午後 3時22分 閉会			
	休憩時間： 0時間02分		会議時間： 1時間10分			
会議場所	役場3階 本会議場					
出席委員 氏 名	委員長	鈴木 健充	委員長	渡辺洋一郎	委員	西尾 一則
	副委員長	中田智恵子	副委員長	黒田 栄継	委員	常通 直人
	委員	橋本 和仁	委員	中村 和宏		
	委員	堀切 忠	委員	寺町 平一		
	委員	梶澤 幸治	委員	正村紀美子		
	委員	立川 美穂	委員	柴田 正博	議長	早苗 豊
説明員	町長	手島 旭				
	政策推進課長	石田 哲				
	政策推進課長補佐	佐々木雅之				
	政策推進課政策調整係	村上 佳子				
参考人						
欠席委員 氏 名	委員	広瀬 重雄				
事務局職員	事務局長	安田 敦史	総務係長	佐藤 史彦	総務係主査	上田瑞紀
<p>1 開 会 鈴木委員長が開会を告げ、事務局から委員会の日程について説明をする。</p> <p>2 議 件 (1) 調査事項 ア 第5期芽室町総合計画後期実施計画（以下「5期総後期計画」）の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長：担当課から説明願います。</li> <li>・政策推進課長：資料1-1について課長補佐から、1-2について「まちづくりの基本目標⑤：住民と行政がともに考え未来につなぐ自治のまちづくり」の全体像を町長から説明の旨を説明。</li> <li>・政策推進課長補佐：資料1-1、全体スケジュール説明。令和4年9月議会提案が最終予定。適宜議会への情報提供、協議の前提。</li> <li>・町長：資料1-2、芽室町地域・行政経営システム（全体フロー図）説明。5期総後期計画に向けて、基本目標⑤の実現に際する主な課題を4つに捉えた。「①人口減少・少子高齢化対策」「②地域コミュニティ・郷土愛醸成」「③次世代人財育成（町民）」「④次世代人財育成（職員）」。また、解決方策を7つに捉えた。「①移住・定住」「②交流人口増加」「③関係人口増加」「④コミュニティスクール」「⑤町内会活性化」「⑥業務効率化・改善」「⑦ワークライフバランス実現」。</li> </ul>						

- ・委員長：「資料1-1」について質疑は？
  - ・梶澤委員：アンケートは前回2,000人。今回は？
  - ・課長補佐：16歳以上の町民2,000人郵送。中学生には別途タブレット活用で全生徒から質問想定。
  - ・梶澤委員：承知した。前回42%の回答率につき、今回も期待する。審議会委員の人数と構成は？
  - ・課長補佐：条例では40名以内。審議会委員15名。専門部会18名。公募3名。団体推薦も加える（例：農協、観光物産協会、商工会等）。
  - ・梶澤委員：これまでの実績として、会議回数が少なく時間も少ないと感じる。会議手法について検証は？
  - ・政策推進課長：事務局としては、（会議の頻度や時間は）少ないと感じていない。しかしながら、ご提言を踏まえて検討の一考としたい。
  - ・梶澤委員：町の案に対して意見を述べるという印象。スケジュールが固まっているため、自由闊達な意見を出すという意味では、（会議時間が長引く懸念もあり）再考の余地はあると感じる。
  - ・政策推進課長：趣旨は理解する。形式的な会議とならないように委員各位と共通認識を図りながら進めていきたい。
  - ・立川委員：令和4年8月以降（パブコメ）の審議会開催の予定は？パブコメ後の審議は？
  - ・政策推進課長：（前回のスケジュールをベースとしての資料であり）ご提言を踏まえて、検討したい。
  - ・立川委員：会議の手法は？新たな会議の進め方として、手法を想定しているか？
  - ・政策推進課長：現段階で新たな手法を想定していないが、検討要素としていく。
  - ・正村委員：議会への情報提供のスケジュール案は？
  - ・政策推進課長：（所管委員会の）調査事項としていただいた都度で進めていきたい。
  - ・正村委員：12月頃の想定は？
  - ・政策推進課長：現段階の案としては年内に素案を固めていきたい思いはあるが、流動的である。
- 
- ・委員長：「資料1-2」について質疑はないか？
  - ・梶澤委員：Uターンの位置づけは？
  - ・町長：幼少期でふるさと愛を醸成し、そこから帰属意識をもっていただく位置付けと考えている。
  - ・梶澤委員：コミュニティスクール・ゾーンに位置付けられることを期待する。町民活動支援センターへの依存が大きいイメージはあるが、いかがか？
  - ・町長：図（資料）に示すには限界もあるものの、地域全体での取り組みであると考えている。
  - ・梶澤委員：コミュニティスクールは地域で育み創るもの。町民活動支援センターのみではなく、地域への軸足を重要視していただきたい。
  - ・町長：ご提言のとおりと考える。改めて、検討していきたい。

- ・黒田委員：誰が号令をかけるのか？学校運営協議会個々にも取り組みが異なる。統一した考えはあるか？
- ・町長：難しい問題である。しかしながら、一案としては、町が働きかけ地域が動く流れがスムーズかと感じる。
- ・柴田委員：地域担当制について、いっそうの機能向上が有効ではないか？
- ・町長：各町内会、行政区ごとに（様々な定義で）差がある実態。しかしながら、ご提言を踏まえて、重要な機能として検討していきたい。さらに町内会の加入率が低下している中、町内会以外の機能・組織についても「まちづくり」への参画要素として考えていく新たな発想も必要と考えている。
- ・柴田委員：（私の居住する）学校がない地域は、どんどん衰退（人と人との間が離れていく）していく。これは明らかである。逆転の発想で地域づくりの諸問題をそういった地域に投げかけて、回答や方策を見出す手法も一案ではないかと感じる。
- ・町長：一例として「環境保全組合」はひとつのコミュニティという実態もある。市街地・農村地域問わず、悩みは同じかもしれない。新たな発想として受け止めさせていただきたい。
- ・西尾委員：町内会加入率は6割を切り5割程度かもしれない。パートナーシップなどのしくみもあるが、やはり、加入率向上は度外視できない事項と感じる。行政の重要な使命であり、（町内会の再生は）魅力あるまちづくりに不可欠だと痛感する。「フラット」とは、白紙からという意味か？
- ・町長：町内会の加入率向上の課題に手を付けないという意味ではなく、今一度、原点から考えていく必要があるという意味である。
- ・西尾委員：加入率が低いのは、魅力がないからである。若いうちは（町内会に意義やメリットを）感じなくても高齢になるとありがたさを感じるものである。（町内会機能以外のコミュニティ創設など）理想論ばかりではなく、町の基本的な使命であることを重視していただきたい。
- ・町長：貴重な意見と捉える。一生懸命取り組んでいく。
  
- ・委員長：自由討議を行う。前回同様（第5期総のスタート時）の流れで調査を進めることで異議ないか？
- ・正村委員：後期計画ということで、トーンを調整しながらアレンジしながら進めていくことで良い。
- ・委員長：評価のスケジュールについて、両委員会で調査し（2月まで）、その結果を踏まえて合同委員会開催とする。異議ないか？  
（異議なし）

### 3 その他

- (1) 次回委員会の開催日時について  
両常任委員長協議とする。

(2) その他

委員、議長、事務局なし。

以上をもって、合同委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	名	議員	0名	合計	名
------	-----	----	-------	---	----	----	----	---

令和3年6月16日

総務経済常任委員会委員長 鈴木 健充